
黄金バット 第五十話 フー＝マンチュー博士静岡での空中戦
坂田火魯志

暁～小説投稿サイト～ By 肥前のポチ

<http://www.akatsuki-novels.com/>

注意事項

このPDFファイルは「暁く小説投稿サイトく」で掲載中の小説を「暁く小説投稿サイトく」のシステムが自動的にPDF化させたものです。

この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「暁く小説投稿サイトく」を運営する肥前のポチに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

黄金バット 第五十話 フー||マンチュー博士静岡での空中戦

【作者名】

坂田火魯志

【あらすじ】

静岡城跡の公園を破壊しようとするフー||マンチュー博士、市民の人達は何とかそれを防ごうとしますがそこに出来たのは。

第一章

黄金バット

第五十話 フー・マンチュー博士静岡

での空中戦

静岡市は平和でした、ですがその平和は突如として破られてしまいました。

何と突如駿府城跡にフー・マンチュー博士が現れたのです。博士は登場すると即座にお空に漆黒の身体を持つ巨大な龍を出してきました。

そのうえで、です。博士は自分と龍に恐れ慄く人達に対して言いました。

「この龍明日の朝までに倒してみせよ、そうせぬ場合この黒龍が縦横に暴れこの城跡を完膚なきまで粉々にする」

「な、何ということだ」

「駿府城の跡を破壊するなんて」

「駿府城は跡になっても公園になっているんだ」

「静岡の人達の貴重な憩いの場所なんだぞ」

「しかも歴史的な資料としても貴重なんだ」

「そんな場所を壊させるか」

「絶対に許さないぞ」

静岡の人達はそんなことはさせないと立ち上がりました、そして城跡に集まり博士と対峙します。ですが。

静岡の人達の前にです、何と知事さんが出て来て言いました。

「馬鹿なことは止める！」

「馬鹿なこと！？」

「一体何がですか」

「何が馬鹿なんですか」

「公園を守らないといけないじゃないですか」

「暴力は駄目だ！こんな公園の為に暴力は振るうな！」

知事さんはこう言うのでした。

「こんな公園どうでもいいだろう！博士に暴力は振るうな！」

「あんた何言ってるんだ！」

「相手は魔人だぞ！」

「公園を破壊すると言ってるんだぞ！」

「そんなことを許すのか！」

「暴力を振るっているのはどっちだ！」

静岡の人達はおかしなことを言う知事さんに怒って言いました。

「あんた何言ってるんだ！」

「前から変なことばかり言ってたが今回もか！」

「自分達の大切なものを自分達で守らないでどうするんだ！」

「何が暴力だ！」

「これは守る為の戦いだ！」

こう言って知事さんを見捨てて博士そして黒龍に向かおうとします、知事さんはそれでも皆の邪魔をしようとはしますが。

自衛隊そして警視庁の人達が静岡の人達のところに来て言ってきました。

「お話は聞いています」

「総理から出動要請が出ました」

「駿府城の城跡は守らなくてはいけないと」

「ここは市民の憩いの場、貴重な歴史資料だとのことで」

「守らなくてはならないと言われてです」

「私達も皆さんと一緒に戦います」

「一緒に城跡を守りましょう」

こう言ってます、自衛隊と警視庁の人達は静岡の人達と一緒に博士と黒龍に向かいます。知事さんは総理大臣に携帯電話で必死に抗議しようしますが総理大臣はもう首相官邸からヘリコプターで現場に向かい陣頭指揮に入ろうとしているところで抗議は受け付けられませんでした。

たっていき。

遂にその額に一撃を浴びせました、すると黒龍は苦しそうな絶叫をあげて煙の様に消えていきました。博士もそれを見て齒噛みして言いました。

「今日も敗れたか、だがまた会おう」

「博士も消えたぞ」

「煙の様に消えたぞ」

「黒龍が消えて諦めたんだ」

「そうしたんだ」

「暴力は駄目だ！」

博士が消えたのを見て口々に言った皆にです。

知事さんがまた言いました、ですが誰もがその知事さんに冷たい目を向けて言いました。

「あんたの言う通りにしたらここはなくなっていたぞ」

「徳川家康公が建てた貴重なお城の跡が」

「そして静岡の人達の憩いの場所が」

「そんな大切な場所がどうなってもいいか」

「それが静岡県の知事さんの言葉か」

「忘れないからな」

「くっ……」

知事さんは皆の冷たい目と言葉に怯んででした。

尻尾を巻いて逃げていきました、皆そんな知事さんを軽蔑しきった目で見送りました。そうしてでした。

皆で黄金バットに顔を向けて言いました。

「黄金バット有り難う」

「今回も助けられたな」

「黄金バットは自ら奮い立つ人達を助けてくれる」

「今回もそうだったな」

「心から勇気を出した人達を助けてくれるんだな」

その黄金バットを見ている、そしてです。

戦いを終えて天主台に戻った黄金バットは皆に挨拶をする様にお顔を向けてからです。

何も言わずお空に両手を挙げて飛び上がってでした、そのうえで何処かへと飛び去っていきました。その黄金バットをです。

皆総理大臣の掛け声で手を振って見送りました、戦いが終わった後はお日様がお空にありました。そうして駿府城跡の公園を暖かく照らすのでした。

黄金バット第五十話

完

2023・3・29

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
http://www.akatsuki-novels.com/stories/index/novel_id~28619

黄金バット 第五十話 フー＝マンチュー博士静岡での空中戦
2023年07月05日 19時51分発行